

手稲山口小学校6年生

「花いっぱいみんなの願い
土功川」

小学生が総合的な学習の一環で、自宅そばの手稲土功川沿いに植えられているきれいな花を見つけ、「だれがどんな思いで植えているのかな」と興味を持ったことから始まった活動です。

花の手入れをしている人を見つけ、質問してみると、通る人たちに楽しんでもらえるようにと付近の住民が植えていることが分かりました。

人のために花を植えている人がいることに感心し、これに感謝する一番の方法は、多くの人に花を見て楽しんでもらうことだと、思いつきました。そこで、この話をたくさんの人に知ってもらうために、今後、回覧版を使って地域の皆さんにお知らせしようと計画しています。

※学年は「手稲まちづくり楽考」が開催された二月現在のものです。そのため、四月現在で中学生となっています。



▲昨年の夏に、川沿いを下流から上流へ歩きながら調査しました

前田森林公園凸凹クラブ

「子どもも大人も一年を通して公園をより楽しむ、できたてほやほやの活動グループです」

前田森林公園をよりいっそう楽しい公園にしようと、子どもから大人まで35人のメンバーで活動しているグループです。

これまでに、公園内を歩いて気になるところを探したり、樹の枝払いや落ち葉集めなどの公園管理を体験したりしました。

その後、実際の体験を基に公園を楽しむために何ができるかを検討。四季折々の自然や野鳥などの観察会、昆虫採集、花や葉を押し花にするしおり作り講習会を計画しています。また、食べる楽しみも大切にしようと、公園に実のなる木を植えたり畑を耕したりして、収穫後に公園で試食会も実施したいと考えています。さらにはカナルを利用した運動会を開きたい、などと夢は尽きません。

これからも、たくさんの方から意見やアイデアを募集して、前田森林公園が区民により身近な公園となるよう、活動を展開していく予定です。



▲楽しい劇に仕立てて、これまでの活動内容を発表してくれました

各団体の発表後、住民主体のまちづくりをさらに活発にしていくにはどうしたら良いかが、話し合われました。

今回紹介したような住民活動を、区民の皆さんにもっと知ってもらうことが重要なのですが、各団体には自分たちの思いを区内の隅々まで発信する手段がありません。また、各団体が抱える課題を解決し、活動の場を広げていくには、地域や世代、さまざまな活動テーマをつなぐ、ネットワーク体制も必要です。

そこで、区民の手で情報を発信していくため、まちづくり新聞社を立ち上げ、そこをネットワーク作りの拠点にしてはとの提案がありました。

「まちづくり楽考」の後、さっそく、まちづくり新聞社設立に向けた会議が行われ、現在、準備が着々と進められています。そこで、

あなたも **新聞車** に乗ってみませんか？

「まちづくり楽考」からアイデアが飛び出した、まちづくり新聞社の設立準備会議が3月7日に行われ、大学生から80歳代までの12人の方が集まりました。この日の話し合いでは、新聞社の名前を「ていね新聞車」とすることが決定。そして、「コーヒーでも飲みながら、たくさんの人で手稲のまちづくりへの思いを気楽に語り合いたいね」という願いから「バス ストップ カフェ（乗り合いバスの停留所をイメージ）」という、集会の場を設けることになりました。これは「手稲のまちを良くしたい」という同じ思いを胸に抱く人たちが、いつでも自由に集まり、交流する様子を、行き先は同じでもいろいろな人たちが集まる、乗り合いバスのイメージに例えて名付けられたものです。“まちづくり人”のつながりをはぐくんでいける場を目指して、定期的に開催する予定です。

会場は北海道工業大学4号館2階4212室。参加は無料で、どなたでも参加できます。

手稲のまちづくりに興味がある方は、一度来てみませんか。日時などの詳細は、事務局までお問い合わせください。

【事務局】手稲区総務企画課企画調整担当

☎681-2400 内線219・227